

第 112 回

2020 年 1 月～3 月期

「景況調査」



一般社団法人 福岡県中小企業家同友会

目次

1	回答者の属性	1
2	全体の景況判断	4
	(ア) 全体の景況感	4
	(イ) 各項目の状況	6
3	主要指標のクロス分析	11
	(ア) 景況感別の動向	11
	(イ) 業種別の動向	12
	(ウ) 従業員規模別の動向	12
	(エ) 本社地区別の動向	12
4	経営上の問題点	13
5	経営指針書について	16
6	中同協コロナウィルス問題影響アンケート	18
	(ア) 売上が最も多い事業(回答属性)	18
	(イ) マイナスの影響に対する対応	19
	(ウ) 2020年3月の対前年比売上見込み	20
	(エ) 財務状況の把握	21
	(オ) 資金繰り	21
	(カ) 社内対応	22
	(キ) 支援策の認知度	22
7	自由回答項目	23
	(ア) 景況理由	23
	(イ) 経営上の問題その他	31

1 回答者の属性

このアンケートを回答したのはどのような人々か

新型コロナウイルス禍と回答期間の短さから過去最低の217件となった。

第112回:調査時期:令和2年3月17日~3月27日

回収数:217件(令和2年2月末日会員数2,260名、回収率9.6%)

方法:edoyu アンケートシステム(Web)、及びFAX

回答方法		第111回		第112回		
No.	カテゴリ	件数	割合%	件数	割合%	構成比増減
1	WEB	285	92.8	216	99.5	6.7
2	FAX	22	7.2	1	0.5	-6.7
	サンプル数 (%ベース)	307	307	217	217	-90
1.業種		第111回		第112回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	製造業 (生産財)	21	6.9	18	8.3	1.4
2	製造業 (消費財)	24	7.8	26	12	4.2
3	建設業 (建築)	22	7.2	18	8.3	1.1
4	建設業 (土木)	8	2.6	6	2.8	0.2
5	建設業 (設備)	18	5.9	12	5.6	-0.3
6	商業・流通業	39	12.7	30	13.9	1.2
7	サービス業 (対事業所)	104	34	60	27.8	-6.2
8	サービス業 (対個人)	70	22.9	46	21.3	-1.6
	不明	1	0	1	0	
	サンプル数 (%ベース)	307	306	217	216	-90
2.従業員数		第111回		第112回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	0名~5名	109	35.6	79	36.6	1
2	6名~10名	62	20.3	39	18.1	-2.2
3	11名~20名	52	17	38	17.6	0.6
4	21名~30名	30	9.8	20	9.3	-0.5
5	31名~50名	16	5.2	19	8.8	3.6
6	51名~100名	16	5.2	9	4.2	-1
7	100名以上	21	6.9	12	5.6	-1.3
	不明	1	0	1	0	0
	サンプル数 (%ベース)	307	306	217	216	-90

3.本社所在地		第111回		第112回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	福岡地区	197	64.4	135	62.5	-1.9
2	北九州地区	39	12.7	20	9.3	-3.4
3	筑豊地区	38	12.4	35	16.2	3.8
4	県南地区	29	9.5	21	9.7	0.2
5	福岡県外	3	1	5	2.3	1.3
	不明	1	0	1	0	0
	サンプル数 (%ベース)	307	306	217	216	-90
4.所属支部		第111回		第112回		
No.	支部名	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	東支部	22	7.2	15	6.9	-0.2
2	福博支部	14	4.6	7	3.2	-1.3
3	博多支部	27	8.8	19	8.8	0.0
4	中央支部	15	4.9	9	4.2	-0.7
5	西支部	15	4.9	13	6.0	1.1
6	南支部	20	6.5	17	7.9	1.3
7	筑紫支部	9	2.9	5	2.3	-0.6
8	福友支部	31	10.1	27	12.5	2.4
9	青年支部	17	5.6	4	1.9	-3.7
10	玄海支部	10	3.3	10	4.6	1.4
11	かすや支部	11	3.6	10	4.6	1.0
12	糸島支部	14	4.6	4	1.9	-2.7
13	北九州支部	29	9.5	11	5.1	-4.4
14	ひびき支部	9	2.9	8	3.7	0.8
15	のおがた支部	22	7.2	20	9.3	2.1
16	飯塚支部	12	3.9	8	3.7	-0.2
17	田川支部	5	1.6	8	3.7	2.1
18	久留米支部	9	2.9	8	3.7	0.8
19	大牟田支部	2	0.7	4	1.9	1.2
20	有明支部	7	2.3	3	1.4	-0.9
21	りょうちく支部	6	2.0	6	2.8	0.8
	不明	1	0.3	1	0.5	0.1
	サンプル数 (%ベース)	307	306	217	216	-90.0

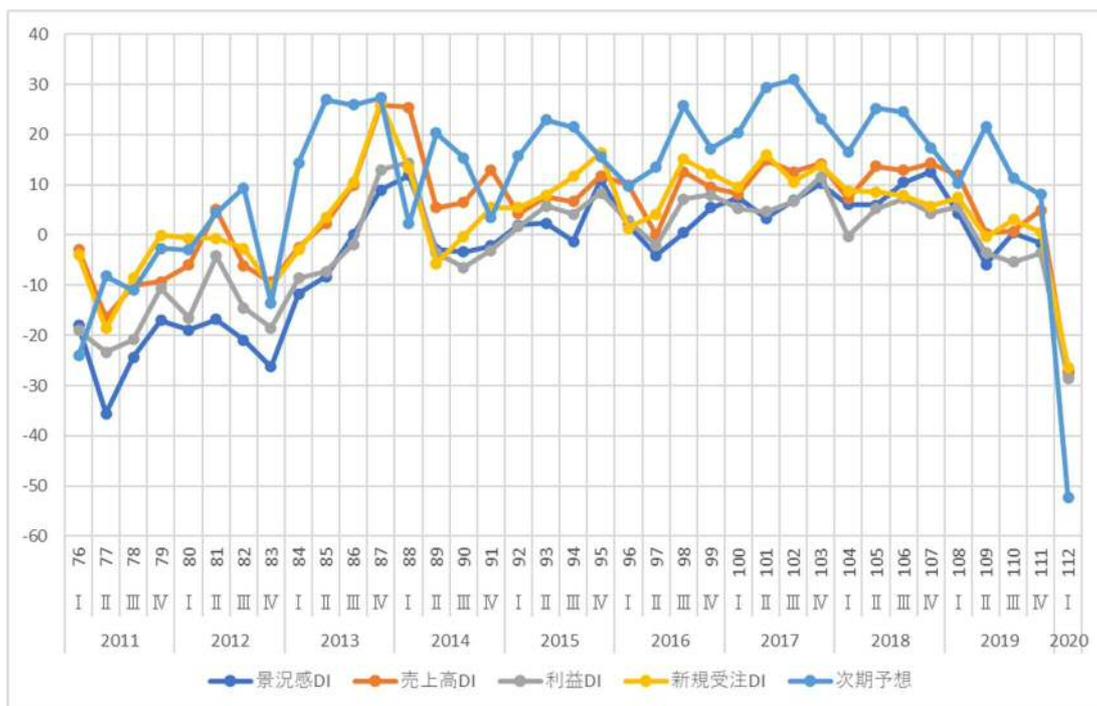
2 全体の景況判断

(ア) 全体の景況感

景況感各種 DI(よい-悪い)の状況はどうなっているか

1 月後半からのコロナウイルス問題の影響が拡大し、転落というべき急速な全面的悪化となった。

全体の推移



	今回数値	前回からの変動
景況感 DI	-27.2	-25.5
売上高 DI	-28.1	-33.1
利益 DI	-28.6	-25.0
新規受注 DI	-26.3	-26.9
次期予想 DI	-52.2	-60.3



年	月	回	回収数	景況感DI	売上高DI	利益DI	新規受注DI	次期予想	資金繰りDI
2011	I	76	349	-18	-3	19	-4	-24	-28
	II	77	398	-36	-16	23	-19	-8.2	-11
	III	78	374	-24	-10	21	-9	-11	-13
	IV	79	341	-17	-9	11	0	-2.7	-10
2012	I	80	338	-19	-6	17	-1	-3	-8
	II	81	437	-17	5	-4	-1	4.5	-6
	III	82	502	-21	-6	15	-3	9.4	-15
	IV	83	357	-26	-9	19	-10	-13.6	-16
2013	I	84	420	-12	-3	-9	-3	14.4	-16
	II	85	378	-8	2	-7	4	26.9	-8
	III	86	284	0	10	-2	11	25.9	1
	IV	87	290	9	26	13	26	27.3	0
2014	I	88	300	12	25	14	13	2.3	0
	II	89	319	-3	6	-4	-6	20.3	-6
	III	90	294	-3	7	-7	0	15.4	0
	IV	91	319	-2	13	-3	6	3.5	-1
2015	I	92	359	2.0	4.3	1.7	5.5	15.7	-2.0
	II	93	298	2.4	7.6	5.8	8.0	22.9	7.4
	III	94	386	-1.3	6.7	4.2	1.7	21.5	-2.6
	IV	95	355	11.0	11.8	8.4	16.4	15.5	3.9
2016	I	96	424	2.1	10.0	2.9	1.4	9.8	未調査
	II	97	347	-4.1	0	-2.1	4.2	13.5	10.0
	III	98	449	0.5	12.6	7.2	15.1	25.7	6.3
	IV	99	382	5.5	9.5	8	2.2	17.2	5.0
2017	I	100	287	7.4	8.2	5.3	9.5	20.4	未調査
	II	101	409	3.4	14.9	4.7	16	29.5	6.9
	III	102	442	6.9	12.6	6.7	10.6	31	5.7
	IV	103	355	10.3	14.2	11.6	13.8	23.2	12.2
2018	I	104	358	6.1	7.3	-0.3	8.8	16.5	5.9
	II	105	382	6	13.7	5.3	8.6	25.2	9.5
	III	106	273	10.5	12.9	7.3	7.9	24.5	10.7
	IV	107	296	12.6	14.3	4.4	5.8	17.4	4.1
2019	I	108	301	4.3	11.9	5.7	7.5	10.4	1.0
	II	109	277	-5.9	0.4	-3.6	-0.4	21.6	3.3
	III	110	267	0.5	0.8	-5.4	3.1	11.3	8.7
	IV	111	307	-1.7	5	-3.6	0.6	8.1	5.9
2020	I	112	217	-27.2	-28.1	-28.6	-26.3	-52.2	別回答

2014以前は四捨五入
※資金繰りDIは73回より5段階評価

景況感は現況判断のため、同期比較すると以下のような推移となっている。

	I	II	III	IV
2011	-18	-36	-24	-17
2012	-19	-17	-21	-26
2013	-12	-8	0	9
2014	12	-3	-3	-2
2015	2	2	-1	11
2016	2	-4	0	5
2017	7	3	7	10
2018	6	6	11	13
2019	4.3	-5.9	0.5	-1.7
2020	-27			



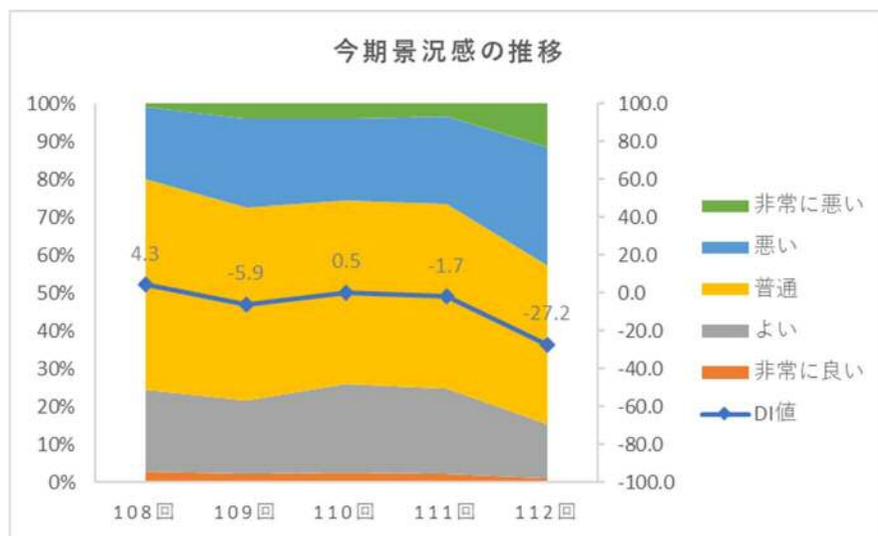
(イ) 各項目の状況

今期景況感 DI

2020年1～3月期の貴社の景況判断はいかがでしたか。

「よい」側や「普通」から「悪い」側へシフトし、25pt以上悪化の-27.2となった。

5.今期景況判断		第111回	DI値	-1.7	第112回	DI値	-27.2		-25.5
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%		増減	
1	非常に良い	7	2.3	24.6	2	1	15.4	-1.3	-9.2
2	よい	67	22.3		30	14.4		-7.9	
3	普通	147	49	49	88	42.1	42.1	-6.9	
4	悪い	69	23	26.3	65	31.1	42.6	+8.1	+16.3
5	非常に悪い	10	3.3		24	11.5		+8.2	
	不明	7			8				
	サンプル数 (%へ-ス)	307	300		217	209		-91	



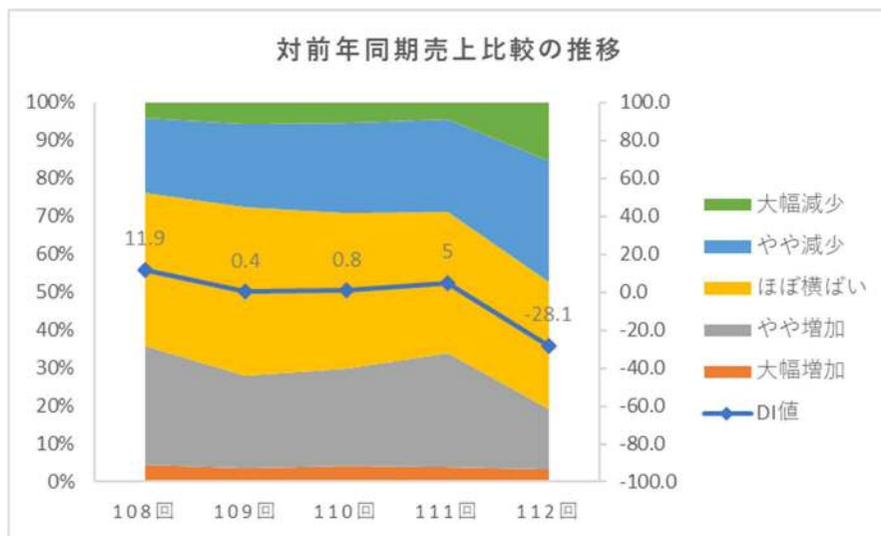
「悪い」側が多い一方で「普通」も僅差で高く、底堅いかまだ影響が及んでいない企業が存在しているが、後者の可能性が高いと悪化はさらに続くと考えられる。

売上高 DI

2020年1～3月期の貴社の「売上高」について、前年同期(2019年10～12月期)に比較してお答えください。

前回の5から33.1の大幅悪化で-28.1と悪転した。「ほぼ横ばい」の動きは景況感より少なく、「増加」側からのシフトが見られた。

6.対前年同期売上高比較		第111回	DI値	5	第112回	DI値	-28.1	-33.1
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%	増減	
1	大幅増加	12	4	33.8	7	3.3	-0.7	-14.5
2	やや増加	90	29.8		34	16	-13.8	
3	ほぼ横ばい	113	37.4	37.4	71	33.3	-4.1	
4	やや減少	73	24.2	28.8	68	31.9	+7.7	+18.6
5	大幅減少	14	4.6		33	15.5	+10.9	
	不明	5			4			
	サンプル数 (%ベース)	307	302		217	213	-89	



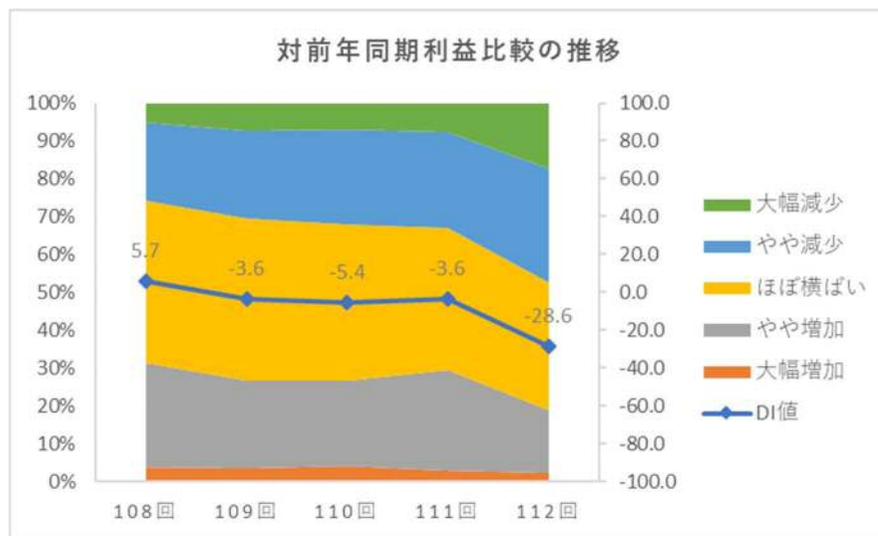
	景況理由 pickup「売上」(ウィルス問題以外)
よい	前期は商品開発(投資)に注力してきたため販売数/売上は伸びなかった。しかし今期は、開発した商品が定期的に購入(納入)されている為、上記状況となっている。
	売上先が固定しているため 前年が良すぎたため、本年度は売り上げ下がっていますが、大体例年よりは売上利益ともに上がっている。
普通	売上は減少しているが、約1年かけて改造した機会が出荷出来たため売り上げに加算できた。
	特殊要因により売上高は大幅に増加したものの、その他は減少。 2月は売上25%増、3月は25%減。
悪い	今年度は2019年4月から売上の減少があっている。消費税増税前の注文もそれほどなく、暖冬で冬物も動かなかった。
	売上高にこだわらず減収・増益を目指したため。新規受注に関しては固定客が定着化してきた。

利益 DI

2020年1～3月期の貴社の「利益」について、前年同期((2019年1～3月期)に比較してお答えください。

前回マイナス域であったが、「増加」側からさらに「減少」側へのシフトが見られ25pt悪化の-28.6となった。

7.対前年同期利益比較		第111回	DI値	-3.6	第112回	DI値	-28.6		-25.0
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%		増減	
1	大幅増加	9	3	29.5	5	2.4	18.7	-0.6	-10.8
2	やや増加	80	26.5		34	16.3		-10.2	
3	ほぼ横ばい	113	37.4	37.4	71	34	34	-3.4	
4	やや減少	77	25.5		63	30.1		+4.6	+14.2
5	大幅減少	23	7.6	33.1	36	17.2	47.3	+9.6	
	不明	5			8				
	サンプル数 (%ベース)	307	302		217	209		-93	



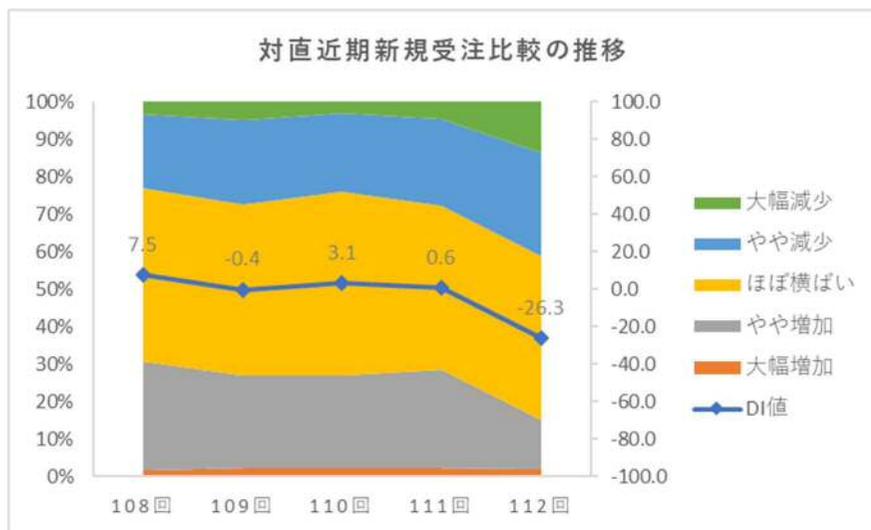
景況理由 Pickup「益」(ウイルス問題以外)	
よい	前年が良すぎたため、本年度は売り上げ下がっていますが、大体例年よりは売上利益ともに上がっている。
普通	新規開拓による増収ですが、人材不足における人件費や外注費の増加により利益は伸びていない。
悪い	<p>同業他社が先行き不透明感から仕事をめいっぱい取れるだけ取るような動きをとり、その関係で受注価格が下がり、利益率がやや低下した</p> <p>大手企業1社による減少傾向が足を引っ張る形となったが、新規先の販路拡大が少しずつ進んでいる事と昨年度の社員増の為、利益減少となる。</p>

新規受注 DI

2020年1~3月期の貴社の「新規受注」について、直近期(2019年10~12月期)に比較してお答えください。

「ほぼ横ばい」はあまり動かず、増加側から減少側へシフトして26.9pt減の-26.3へ悪転した。

8.対直近期新規受注比較		第111回	DI値	0.6	第112回	DI値	-26.3	-26.9
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%	増減	
1	大幅増加	7	2.3	28.4	4	1.9	-0.4	-13.4
2	やや増加	78	26.1		28	13.1	-13.0	
3	ほぼ横ばい	131	43.8	43.8	93	43.7	43.7	-0.1
4	やや減少	69	23.1	27.8	59	27.7	+4.6	+13.5
5	大幅減少	14	4.7		29	13.6	+8.9	
	不明	8			4			
	サンプル数 (%ベース)	307	299		217	213	-86	



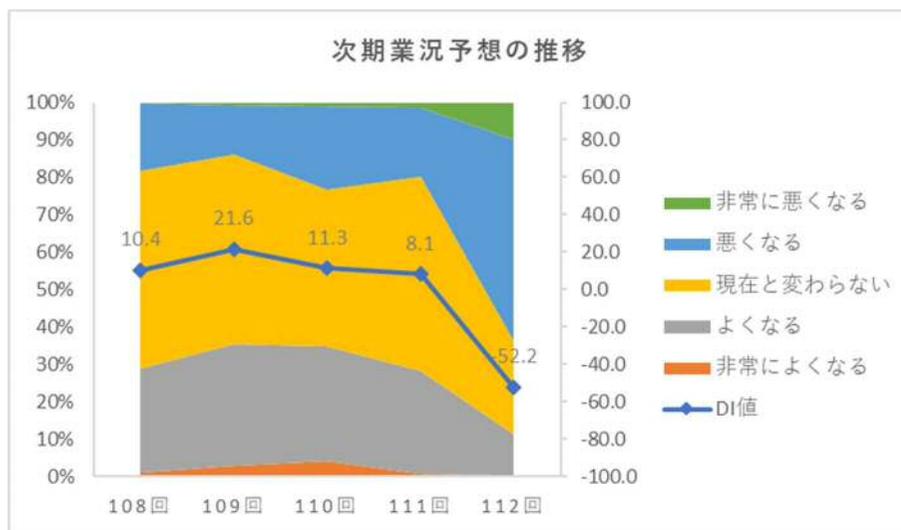
景況理由 pickup「受注」(ウイルス問題以外)	
よい	今期のみ定期ものの受注があったため。
	計画的に受注出来た。
	民間工事受注増加による。
普通	ニッチニーズ掘り起こし営業活動。遠近問わない営業活動。新規設備投資による受注機会逸損防止成功、などによる。
	設備部門の工事案件が受注できた為
	土木設計の会社であり、国、各自自治体の方針に影響されます。単月での業況では、なかなか、比較が難しいところがあります。
悪い	安定した仕事の受注。
	同業他社が先行き不透明感から仕事をめいっぱい取れるだけ取るような動きをとり、その関係で受注価格が下がり、利益率がやや低下した
	昨年末頃から少しずつ受注が落ちてきた為。
	既存顧客のみの対応で新規受注がない。
	売上高にこだわらず減収・増益を目指したため。新規受注に関しては固定客が定着化してきた。

次期予想 DI

2020年 4~6 月期の貴社の業況をどのように予想されていますか。

前回から 60.3pt 減の極端な悪転となり-52.2であった。全体の 6 割以上が悪い側の予想としている。

10.次期業況予想		第111回	DI値	8.1	第112回	DI値	-52.2	-60.3
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%	増減	
1	非常によくなる	2	0.7	28.1	1	0.5	-0.2	-16.7
2	よくなる	81	27.4		23	10.9	-16.5	
3	現在と変わらない	154	52	52	53	25.1	-26.9	
4	悪くなる	55	18.6	20	113	53.6	+35.0	+43.6
5	非常に悪くなる	4	1.4		21	10	+8.6	
	不明	11			6			
	サンプル数 (%ベース)	307	296		217	211	-85	

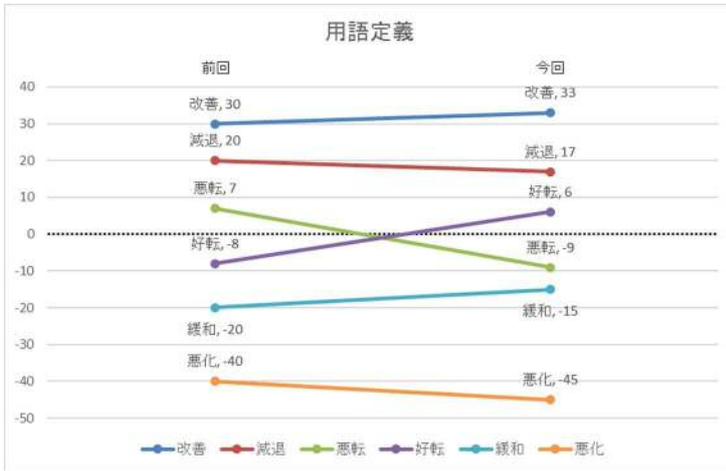


「よくなる」予想は約 1 割、「変わらない」は全体の 1/4 であった。

「悪くなる」側のうち「非常に悪くなる」は有効回答の 10%程度で、大部分は悪化については覚悟しているものの、業況の深刻さの程度については測りかねているとみられる。

3 主要指標のクロス分析

			DI値増加	DI値減少		
説明	DI値が正	改善の回答が多い	改善増進	改善減退	0か負から正	好転
	DI値が負	悪化の回答が多い	悪化緩和	悪化	0か正から負	悪転



本クロス分析では「よい」-「悪い」の差である DI 値を前回数値と比較した変動と合わせて評価している。

以下の表中カッコ内は前回との差であり太字は前回 DI 値から符号反転したことを示している。

DI 値がプラスである場合はよい回答が多いことを示しているため、前回より値が減少してもプラスである限りは全体の趨勢としてはまだ良であることを表している。

(ア) 景況感別の動向

景況感の良し悪しはその他の指標とどのような関係にあったか

すべての領域で悪転・悪化または改善減退がみられた。普通以上では新規受注、悪い側では売上での影響が大きい。

	第112回	景況件数	景況DI構成比	売上高DI値	利益DI値	新規受注DI値	次期予想DI値	件単位
	有効回答数	209	100%	209	204	208	206	
今期 景況 感	非常に良い	2	1%(0)	100(0)	100(0)	100(0)	0(-57.1)	50.0
	よい	30	14.4%(0)	60(-17.6)	66.7(-5)	46.7(-14.9)	-27.6(-72.2)	3.3
	普通	88	42.1%(0)	5.7(-3.3)	-4.6(-1.8)	-9.1(-10.5)	-41.9(-46.1)	1.1
	悪い	65	31.1%(0)	-90.8(-21.2)	-88.7(-8.1)	-64.1(-6.7)	-67.7(-52.5)	1.5
	非常に悪い	24	11.5%(0)	-100(-20)	-91.3(-1.3)	-87.5(-7.5)	-83.3(-33.3)	4.2

(イ) 業種別の動向

業種別の各指標の状況はどのようなであったか

ほぼ全面的に悪化した。特にサービス業（対事業所）は全項目が悪転となった。

第112回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
クロス回答数		209(-90)	213(-88)	209(-92)	213(-85)	211(-84)	
全体	216	-27.3(-25.9)	-28.2(-33.5)	-28.7(-25.4)	-26.3(-27.3)	-52.1(-60.6)	0.5
製造業（生産財）	18	-5.6(-10.6)	-11.1(-11.1)	-22.2(-7.9)	-5.6(-10.3)	-50(-70)	5.6
製造業（消費財）	26	-52(-33.8)	-52(-60.3)	-56(-43.5)	-26.9(-22.8)	-53.8(-33)	3.8
建設業（建築）	18	-5.6(-23.7)	-22.2(-8.6)	-27.8(-36.9)	-50(-59.5)	-70.6(-75.1)	5.6
建設業（土木）	6	-16.7(-16.7)	-16.7(-33.3)	-16.7(-31)	0(-42.9)	-33.3(-4.8)	16.7
建設業（設備）	12	25(19.4)	8.3(2.8)	16.7(16.7)	25(8.3)	-9.1(-20.2)	8.3
商業・流通業	30	-51.7(-33.8)	-40(-32.3)	-27.6(-17.1)	-48.3(-27.8)	-60(-54.9)	3.3
サービス業（対事業所）	60	-24.1(-30)	-25.4(-44.1)	-24.6(-26.5)	-25.4(-36.4)	-41.4(-63.6)	1.7
サービス業（対個人）	46	-34.9(-27.6)	-31.1(-29.7)	-36.4(-29.1)	-28.9(-17.1)	-66.7(-74.2)	2.2

(ウ) 従業員規模別の動向

従業員規模の大小は各指標でどのような差が表れたか

すべての層で売上DIが悪転した。

第112回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
クロス回答数		209(-90)	213(-88)	209(-92)	213(-85)	211(-84)	
全体	216	-27.3(-25.9)	-28.2(-33.5)	-28.7(-25.4)	-26.3(-27.3)	-52.1(-60.6)	0.5
0名～5名	79	-32.9(-28.2)	-33.3(-35.2)	-31.6(-29.7)	-24.4(-27.2)	-50(-71.5)	1.3
6名～10名	39	-10.3(-8.6)	-7.7(-12.6)	-13.5(-11.9)	-25.6(-22.3)	-73(-76.5)	2.6
11名～20名	38	-27.8(-41.5)	-43.2(-45.2)	-42.1(-34.4)	-31.6(-23.9)	-59.5(-53.5)	2.6
21名～30名	20	-45(-41.7)	-35(-48.3)	-36.8(-40.2)	-15(-48.3)	-55(-86)	5.0
31名～50名	19	-44.4(-31.9)	-27.8(-40.3)	-38.9(-51.4)	-47.1(-47.1)	-33.3(-20.8)	5.3
51名～100名	9	0(6.7)	-33.3(-39.6)	-22.2(-22.2)	-44.4(-38.2)	-44.4(-31.9)	11.1
100名以上	12	-8.3(-3.6)	0(-14.3)	8.3(36.9)	0(14.3)	-8.3(1.2)	8.3

(エ) 本社地区別の動向

地区別ではどのような状況であったか

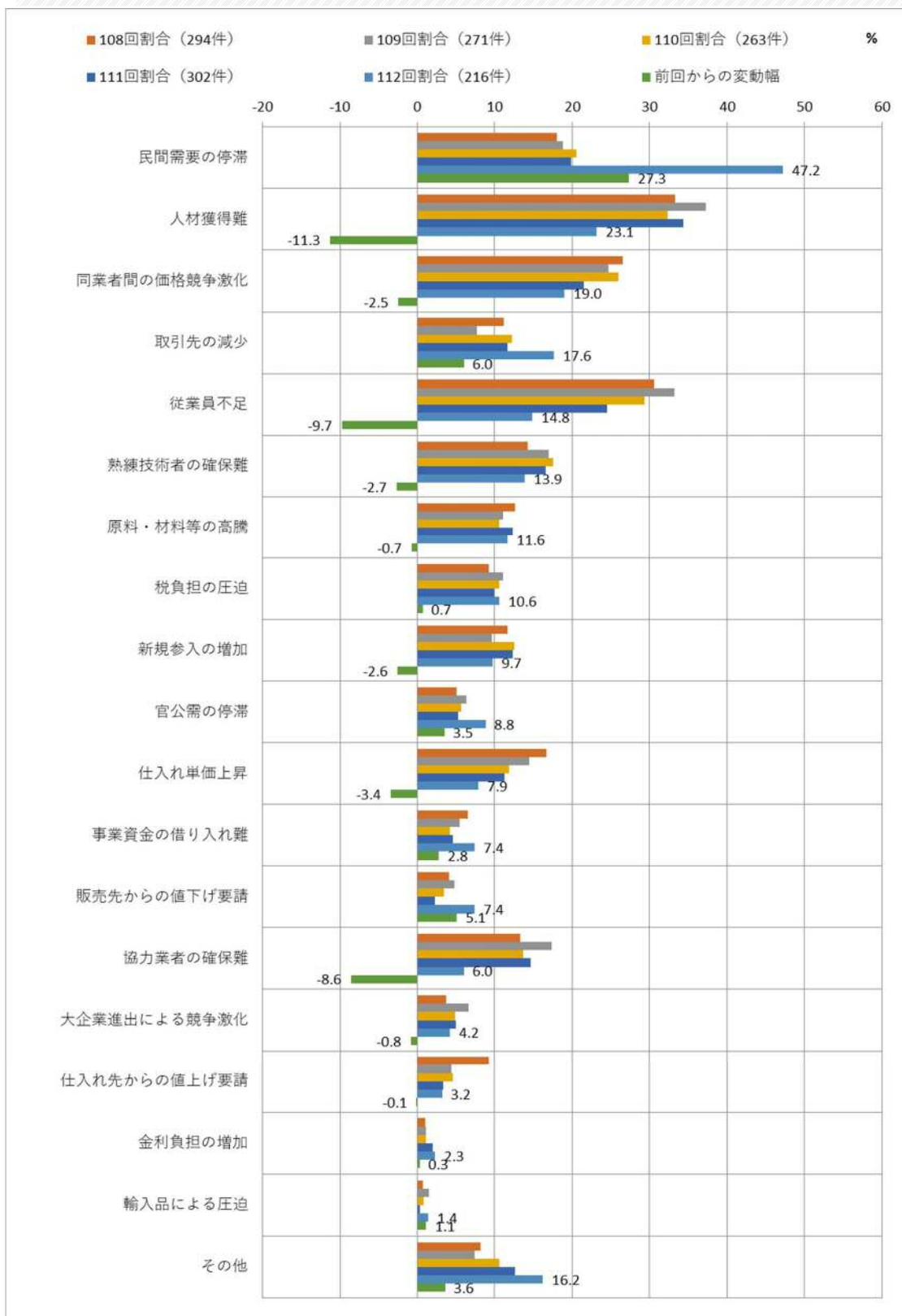
全面的に悪転・悪化がみられる。北九州では特に次期予想が悪い。

第112回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
クロス回答数		209(-90)	213(-88)	209(-92)	213(-85)	211(-84)	
全体	216	-27.3(-25.9)	-28.2(-33.5)	-28.7(-25.4)	-26.3(-27.3)	-52.1(-60.6)	0.5
福岡地区	135	-21.2(-21.2)	-28.4(-35.6)	-27.7(-25.6)	-23.9(-28.1)	-50.4(-62)	0.7
北九州地区	20	-31.6(-28.9)	-42.1(-50)	-35(-35)	-47.4(-42.2)	-75(-69.6)	5.0
筑豊地区	35	-45.5(-29.7)	-25.7(-4.7)	-23.5(0.2)	-28.6(-15.4)	-37.1(-45.3)	2.9
県南地区	21	-23.8(-34.5)	-9.5(-26.8)	-23.8(-34.9)	-9.5(-19.9)	-57.1(-67.9)	4.8
福岡県外	5	-75(-75)	-75(-141.7)	-100(-100)	-75(-41.7)	-100(-66.7)	20.0

4 経営上の問題点

貴社において、現在の経営上の問題点の内、特に厳しいもの3項目までを選んでご回答ください。

「民間需要の停滞」「取引先の減少」が急伸した。



■問題点自由回答(コロナウィルス問題を除く)

1. 過剰な人数の従業員。育児休業2名が戻ってくる予定の為
2. 従業員のスキルアップ。
3. 新人の育成
4. 日本全体のマーケットが停滞する中、国内競争が厳しいことと、一部は福岡の一般消費市場が国内でも期待度が高いため、中央からの競合が触手を伸ばしてきている。
5. 集客コストの高騰。
6. 売上減少
7. 不景気による売り上げの減少
8. 人材育成
9. 売上の低下、原材料調達が難しくなる恐れ
10. 材料の遅れ、市場景気が悪い

本社地区別の経営上の問題点						
%	全体	福岡地区	北九州地区	筑豊地区	県南地区	福岡県外
回答件数	216	135	20	35	21	5
民間需要の停滞	47.2	46.7	55.0	42.9	52.4	40.0
人材獲得難	23.1	22.2	30.0	17.1	28.6	40.0
同業者間の価格競争激化	19.0	21.5	15.0	20.0	4.8	20.0
取引先の減少	17.6	17.8	10.0	11.4	28.6	40.0
従業員不足	14.8	15.6	10.0	14.3	19.0	0.0
熟練技術者の確保難	13.9	14.1	15.0	8.6	23.8	0.0
原料・材料等の高騰	11.6	13.3	5.0	11.4	4.8	20.0
税負担の圧迫	10.6	8.9	15.0	17.1	9.5	0.0
新規参入の増加	9.7	10.4	20.0	5.7	4.8	0.0
官公需の停滞	8.8	7.4	5.0	14.3	14.3	0.0
仕入れ単価上昇	7.9	9.6	5.0	0.0	9.5	20.0
事業資金の借り入れ難	7.4	4.4	25.0	8.6	9.5	0.0
販売先からの値下げ要請	7.4	6.7	10.0	8.6	9.5	0.0
協力業者の確保難	6.0	4.4	0.0	5.7	19.0	20.0
大企業進出による競争激化	4.2	5.2	5.0	2.9	0.0	0.0
仕入れ先からの値上げ要請	3.2	2.2	0.0	11.4	0.0	0.0
金利負担の増加	2.3	2.2	0.0	2.9	4.8	0.0
輸入品による圧迫	1.4	0.7	0.0	2.9	4.8	0.0
その他	16.2	17.8	5.0	20.0	14.3	0.0
各業種別回答数に対するパーセント						
色付きセルは業種別の上位五項目						

業種別の経営上の問題点									
%	全体	製造業 (生産財)	製造業 (消費財)	建設業 (建築)	建設業 (土木)	建設業 (設備)	商業・流通業	サービス業 (対事業所)	サービス業 (对个人)
回答件数	216	18	26	18	6	12	30	60	46
民間需要の停滞	47.2	44.4	65.4	61.1	0.0	33.3	50.0	43.3	45.7
人材獲得難	23.1	44.4	19.2	22.2	50.0	33.3	13.3	20.0	21.7
同業者間の価格競争激化	19.0	22.2	15.4	22.2	0.0	8.3	33.3	23.3	8.7
取引先の減少	17.6	22.2	30.8	11.1	0.0	0.0	20.0	20.0	13.0
従業員不足	14.8	27.8	0.0	5.6	50.0	16.7	10.0	16.7	17.4
熟練技術者の確保難	13.9	27.8	11.5	22.2	33.3	25.0	6.7	13.3	6.5
原料・材料等の高騰	11.6	5.6	19.2	11.1	33.3	33.3	13.3	3.3	10.9
税負担の圧迫	10.6	5.6	7.7	5.6	0.0	25.0	0.0	8.3	23.9
新規参入の増加	9.7	11.1	3.8	0.0	0.0	0.0	20.0	8.3	15.2
官公需の停滞	8.8	5.6	3.8	16.7	33.3	0.0	6.7	11.7	6.5
仕入れ単価上昇	7.9	5.6	3.8	0.0	33.3	25.0	10.0	5.0	8.7
事業資金の借り入れ難	7.4	5.6	19.2	5.6	0.0	8.3	3.3	5.0	8.7
販売先からの値下げ要請	7.4	5.6	15.4	11.1	0.0	0.0	6.7	10.0	2.2
協力業者の確保難	6.0	5.6	0.0	22.2	16.7	16.7	0.0	5.0	4.3
大企業進出による競争激化	4.2	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	13.3	5.0	0.0
仕入れ先からの値上げ要請	3.2	5.6	3.8	0.0	0.0	8.3	3.3	3.3	2.2
金利負担の増加	2.3	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	4.3
輸入品による圧迫	1.4	11.1	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	16.2	0.0	3.8	11.1	0.0	25.0	16.7	21.7	23.9
各業種別回答数に対するパーセント									
色付きセルは業種別の上位五項目									

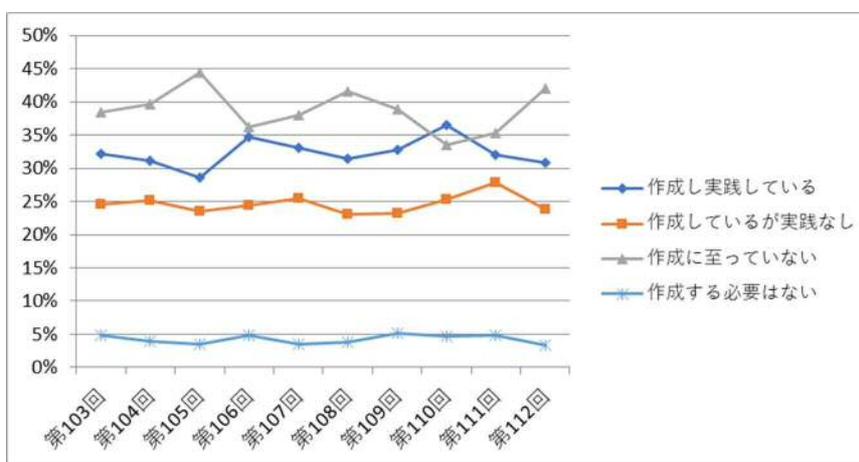
5 経営指針書について

作成の状況

経営指針書を作成していますか。また、指針書に基づいた経営を実践していますか。

今回は作成に至っていないという回答割合が4割あった。

経営指針書の作成と実践		第111回		第112回		増減
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	
1	作成し実践している	94	36.6	66	30.8	-5.8
2	作成しているが実践なし	65	25.3	51	23.8	-1.5
3	作成に至っていない	86	33.5	90	42.1	8.6
4	作成する必要はない	12	4.7	7	3.3	-1.4
	不明	10	0	3	0	
	サンプル数 (%ベース)	267	257	217	214	-43



検証状況

「作成し実践している」と回答された方にお尋ねします。毎月、検証(チェック)していますか。

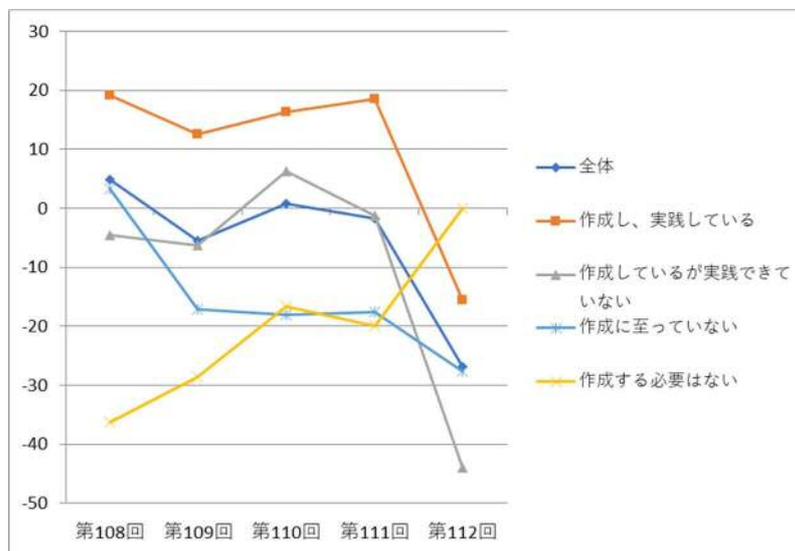
実践している企業のほぼ99%は一定の頻度で検証している。

13.経営指針書の検証について		(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	毎月検証している	25	38.5	37.9
2	毎月ではないが検証している	24	36.9	36.4
3	年に1回は検証している	15	23.1	22.7
4	全く検証していない	1	1.5	1.5
	不明	1		1.5
	サンプル数 (%ベース)	66	65	100

経営指針書の成果

経営指針書の活用は今期景況感の回答にどのように関係しているか

過去 5 回分について作成状況別に景況 DI を見ると、作成し実践している企業は景況 DI の水準は他の回答より高めであった。



各指標 DI の状況

	第112回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
		クロス回答数	208(-92)	212(-90)	208(-94)	212(-87)	210(-86)	
指	全体	208	-26.9(-25.3)	-27.8(-32.8)	-28.4(-24.7)	-25.9(-26.6)	-51.9(-60)	0.5
針	作成し、実践している	64	-15.6(-34.2)	-18.5(-49.4)	-15.9(-32.2)	-26.2(-42.6)	-47.7(-59.5)	1.6
書	作成しているが実践でき	50	-44(-42.8)	-39.2(-35.6)	-42(-34.9)	-35.3(-35.3)	-51(-43.8)	2.0
別	作成に至っていない	87	-27.6(-10)	-30.3(-20.9)	-30.7(-13.5)	-22.5(-10.9)	-56.3(-71.7)	1.1
	作成する必要はない	7	0(20)	0(13.3)	-14.3(5.7)	0(14.3)	-42.9(-62.9)	14.3

6 中同協コロナウィルス問題影響アンケート

(ア) 売上が最も多い事業(回答属性)

14..売上が最も多い事業		(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	総合工事業	8	4	3.7
2	職別工事業	13	6.4	6
3	設備工事業	12	5.9	5.5
4	食料品製造業	7	3.5	3.2
5	繊維・木材・木製品製造	8	4	3.7
6	印刷・同関連産業	9	4.5	4.1
7	化学・石油製品製造	1	0.5	0.5
8	鉄鋼・非鉄金属製造業	4	2	1.8
9	金属製品製造業	6	3	2.8
10	機械器具製造業	4	2	1.8
11	その他製造業	7	3.5	3.2
12	情報通信	3	1.5	1.4
13	運輸	2	1	0.9
14	卸売	11	5.4	5.1
15	小売	18	8.9	8.3
16	飲食	6	3	2.8
17	不動産・物品賃貸	40	19.8	18.4
18	専門サービス	20	9.9	9.2
19	対個人サービス	5	2.5	2.3
20	対事業所サービス	12	5.9	5.5
21	その他	6	3	2.8
	不明	15		6.9
	サンプル数 (%ベース)	217	202	100

その他の主な仕事

1. 対企業専門サービス業務(小区画の再開発業務)
2. サービス業(対事業所)
3. 土木設計
4. 障害者・児福祉業
5. 不動産管理業、仲介業
6. サービス業(対事業所)
7. レンタル、リース、設営業務

(イ) マイナスの影響に対する対応

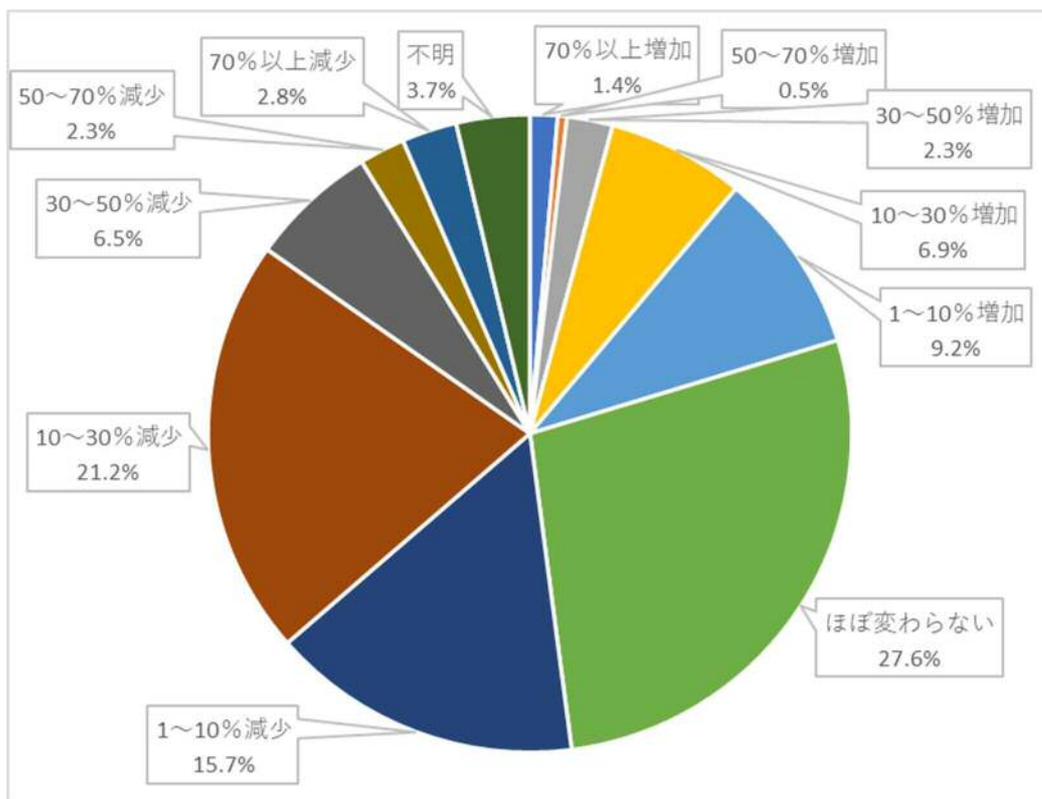
15. マイナスの影響に対する対応		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	新規受注（顧客）の確保	68	31.5	31.3
2	運転資金の借り入れ	54	25	24.9
3	人件費以外の経費の節減	50	23.1	23
4	対策を検討する予定はない	40	18.5	18.4
5	緊急融資制度の活用	38	17.6	17.5
6	生産・販売計画の見直し	31	14.4	14.3
7	事業や従業員の休業・休職	25	11.6	11.5
8	代替え調達先の確保	13	6	6
9	設備投資の延期・縮小・中止	13	6	6
10	人件費の節減	13	6	6
11	在庫の積み増し	10	4.6	4.6
12	物流ルートの変更	5	2.3	2.3
13	融資の返済計画の変更	5	2.3	2.3
14	別拠点での代替生産の実施	2	0.9	0.9
15	自社拠点の一時的な移転	1	0.5	0.5
16	海外関連の事業の縮小	0	0	0
17	その他	24	11.1	11.1
	不明	1		0.5
	サンプル数（%ベース）	217	216	100

マイナスな影響に対する対応内容その他

1. 通常勤務・業務消化
2. 罹患についての予防
3. 現在、どうなるか様子見の状態
4. 様子を見ているところです。
5. 徹底的な衛生管理
6. 社内に対策本部を設置、自己(社員)の衛生管理の徹底、衛生用品の社内備蓄など
7. 顧客への発注機会を創造するアプローチ。
8. 保険
9. マイナスは今のところはない。

(ウ) 2020年3月の対前年比売上見込み

16.現時点の売り上げ見込み		(S A)		
No	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	70%以上増加	3	1.4	1.4
2	50~70%増加	1	0.5	0.5
3	30~50%増加	5	2.4	2.3
4	10~30%増加	15	7.2	6.9
5	1~10%増加	20	9.6	9.2
6	ほぼ変わらない	60	28.7	27.6
7	1~10%減少	34	16.3	15.7
8	10~30%減少	46	22	21.2
9	30~50%減少	14	6.7	6.5
10	50~70%減少	5	2.4	2.3
11	70%以上減少	6	2.9	2.8
	不明	8		3.7
	サンプル数 (%ベース)	217	209	100



(エ) 財務状況の把握

17.財務状況の把握		(M A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	売上高 (前年同月比)	165	82.1	76
2	営業利益 (前年同月比)	138	68.7	63.6
3	固定費	125	62.2	57.6
4	損益分岐点	77	38.3	35.5
5	限界利益 (前年同月比)	74	36.8	34.1
6	変動費	73	36.3	33.6
7	今後必要な資金総額 (固定費6カ月分)	71	35.3	32.7
8	3カ月前の売上予測	70	34.8	32.3
9	人件費以外の削減可能額	42	20.9	19.4
	不明	16		7.4
	サンプル数 (%へ -ス)	217	201	100

(オ) 資金繰り

18.資金繰り		(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	当面不安はない	101	48.3	46.5
2	借入を検討している	59	28.2	27.2
3	緊急に借入が必要	1	0.5	0.5
4	既往債務の返済計画の見直・凍結等を検討	5	2.4	2.3
5	借入交渉中	11	5.3	5.1
6	将来に備えて金融機関に相談中	21	10	9.7
7	わからない	11	5.3	5.1
	不明	8		3.7
	サンプル数 (%へ -ス)	217	209	100

(カ) 社内対応

19.コロナ対応（社内）		（S A）		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	対応の必要性を感じない	34	16.5	15.7
2	対応に手が回らなかった	20	9.7	9.2
3	対応について社内で会議をした	91	44.2	41.9
4	対応について社内で方針や行動指針を示した	51	24.8	23.5
5	対応方針について取引先・顧客へ説明した	10	4.9	4.6
	不明	11		5.1
	サンプル数（%ベース）	217	206	100

(キ) 支援策の認知度

20.コロナ対応支援策		（M A）		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	政府系金融機関の融資制度	131	68.2	60.4
2	セーフティネット保証（保証協会）	128	66.7	59
3	公的な経営相談窓口	122	63.5	56.2
4	小学校等の臨時休業に伴う保護者の休暇取	83	43.2	38.2
5	雇用調整助成金	77	40.1	35.5
6	都道府県市町村の融資制度	76	39.6	35
7	テレワーク導入に対する支援	54	28.1	24.9
8	ものづくり・商業・サービス補助金	51	26.6	23.5
9	返済猶予等の既往債務の条件変更	38	19.8	17.5
10	I T導入補助金	35	18.2	16.1
11	持続化補助金	30	15.6	13.8
	不明	25		11.5
	サンプル数（%ベース）	217	192	100

7 自由回答項目

(ア) 景況理由

うち「コロナ」「ウィルス」「感染」が含まれるものは 45 件、(景況「よい」1 件、「普通」8 件、「悪い」21 件、「非常に悪い」14 件、不明 1 件)

no	5. 今期景況判断	1. 業種	2. 従業員数	3. 本社所在地	9. 景況判断理由
1	非常に良い	建設業 (設備)	0 名~5 名	福岡地区	年度末特有の業界全体における繁忙時期の影響が大きいと思う。
2	よい	製造業 (生産財)	0 名~5 名	北九州地区	前期は商品開発 (投資) に注力してきたため販売数/売上は伸びなかった。しかし今期は、開発した商品が定期的に購入 (納入) されている為、上記状況となっている。
3	よい	製造業 (生産財)	6 名~10 名	福岡地区	例年通りの忙しさ
4	よい	製造業 (生産財)	11 名~20 名	筑豊地区	新型 コロナ の影響と思われる。
5	よい	製造業 (生産財)	51 名~100 名	県南地区	ニッチニーズ掘り起こし営業活動。遠近問わない営業活動。新規設備投資による受注機会逸損防止成功、などによる。
6	よい	製造業 (消費財)	11 名~20 名	福岡地区	今期だけの定期ものの受注があったため。
7	よい	製造業 (消費財)	51 名~100 名	北九州地区	生産が例年と変わりがなかったため。
8	よい	建設業 (建築)	11 名~20 名	福岡地区	前年が良すぎたため、本年度は売り上げ下がっていますが、大体例年よりは売上利益ともに上がっている。
9	よい	建設業 (建築)	31 名~50 名	福岡地区	環境経営において常にリスク管理をしているので、リーマンショックのような手つまり感はない。常に不景気に備えている
10	よい	建設業 (設備)	6 名~10 名	福岡地区	民間工事受注増加による。
11	よい	建設業 (設備)	6 名~10 名	福岡地区	官需要

12	よい	商業・流通業	31名～50名	福岡地区	広告媒体の選択が良好に推移しているため
13	よい	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	売上先が固定しているため
14	よい	サービス業（対事業所）	11名～20名	福岡地区	特になし。
15	よい	サービス業（対事業所）	31名～50名	福岡地区	昨年が悪かったので
16	よい	サービス業（対事業所）	51名～100名	福岡地区	特になし
17	よい	サービス業（対事業所）	100名以上	福岡地区	計画的に受注出来た。
18	よい	サービス業（対事業所）	100名以上	福岡地区	経営指針の計画どおりです。
19	よい	サービス業（対個人）	11名～20名	福岡地区	事業継承にて、新しいニーズを呼び込んでいる
20	よい	サービス業（対個人）	21名～30名	筑豊地区	1月は前年割れしていたが、2月は前年より多く、3月も堅調に推移している
21	普通	製造業（生産財）	6名～10名	筑豊地区	売上は減少しているが、約1年かけて改造した機会が出荷出来たため売り上げに 加算できた。
22	普通	製造業（生産財）	11名～20名	福岡地区	年度末の市況低迷
23	普通	製造業（生産財）	31名～50名	県南地区	同業他社が先行き不透明感から仕事をめいっぱい取れるだけ取るような動きをとり、その関係で受注価格が下がり、利益率がやや低下した
24	普通	製造業（消費財）	0名～5名	福岡地区	ほぼ例年通り
25	普通	製造業（消費財）	6名～10名	福岡地区	暖冬、 コロナ ウイルスによる商品品薄による。
26	普通	製造業（消費財）	6名～10名	筑豊地区	特になし
27	普通	建設業（建築）	0名～5名	福岡地区	コロナ の件で、経済の先行きが不透明さが原因だと思われる
28	普通	建設業（建築）	6名～10名	北九州地区	特になし
29	普通	建設業（土木）	0名～5名	福岡地区	弊社は、土木設計の会社であり、行政の競争入札で受注しております。景気の善し悪しが直撃すると言うよりも、国、各自治体の方針に影響されます。単月での業況では、なかなか、比較が難しいところがあります。
30	普通	建設業（土木）	11名～20名	福岡地区	例年の繁忙期のため

31	普通	建設業（土木）	21名～30名	福岡地区	コロナウイルスの影響は見込んでいない。
32	普通	建設業（土木）	21名～30名	福岡地区	先を見ながらの営業努力により落ち込みを回避している。
33	普通	建設業（設備）	0名～5名	福岡地区	安定した仕事の受注。
34	普通	建設業（設備）	6名～10名	福岡地区	既存の顧客が主なので。
35	普通	建設業（設備）	21名～30名	県南地区	顧客先の設備投資が減った
36	普通	商業・流通業	0名～5名	福岡地区	1・2月は前年より良かったが、3月は前年割れ。
37	普通	商業・流通業	0名～5名	福岡地区	2020年度の客先での先行き観が不透明の為
38	普通	商業・流通業	6名～10名	福岡地区	4月からの新年度に向け、新商品や新企画商品の案件があるのですが、コロナの影響で、中止や時期を延期されたところが多い。又決算前の3月に駆け込み受注があったが、今期はない。
39	普通	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	開発に関する業況に変化がないから。
40	普通	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	業況不変
41	普通	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	営業力の不足
42	普通	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	昨年は2月に大きめの案件があったが今年はなく、3月に新規案件が確定し、3か月見るとやや増加になった。コロナの影響で印刷物の通販など2月から3月中旬まで下がったが、その後若干回復しつつある。
43	普通	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	新規が増えた分、既存がコロナの影響で減ったため横ばい。
44	普通	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	業界の変化で既存事業の需要が低下している
45	普通	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	新たな人脈からお客様のご紹介を頂いたので。
46	普通	サービス業（対事業所）	6名～10名	福岡地区	世間の人手不足
47	普通	サービス業（対事業所）	6名～10名	福岡地区	建物の保守管理で人と接する機会が少ないため
48	普通	サービス業（対事業所）	100名以上	福岡地区	予算化されている業務が多いため
49	普通	サービス業（対事業所）	100名以上	福岡地区	県外新規支店の稼働が1月より始まったため。

50	普通	サービス業（対事業所）	100名以上	福岡地区	新規開拓による増収ですが、人材不足における人件費や外注費の増加により利益は伸びていない。
51	普通	サービス業（対事業所）	100名以上	県南地区	設備部門の工事案件が受注できた為
52	普通	サービス業（対個人）	0名～5名	福岡地区	業態的にそれほど世情に影響を受ける業態ではない、長年の努力によるリピート性及びご利用いただいた方からのご紹介に助けられています。
53	普通	サービス業（対個人）	0名～5名	福岡地区	8について個人事業の代表が産休から復帰したため。
54	普通	サービス業（対個人）	0名～5名	筑豊地区	SNSの更新で地域の方に認知されるようになったため
55	普通	サービス業（対個人）	0名～5名	県南地区	弊社の周年催事に力を入れた結果。
56	普通	サービス業（対個人）	6名～10名	福岡地区	顧客ニーズが価格が安い物にサービスを移行していると感じる、得意先も含め景気が向上している話はほぼ聞かない。
57	普通	サービス業（対個人）	11名～20名	福岡地区	顧客の事情による減少 コロナ ウイルスの影響
58	普通	サービス業（対個人）	21名～30名	福岡地区	コロナ の影響
59	普通	サービス業（対個人）	21名～30名	福岡地区	客数増加
60	普通	サービス業（対個人）	21名～30名	福岡地区	大きな変化はないが、一人ひとり意識を持つように心がけているもの。
61	普通	サービス業（対個人）	21名～30名	筑豊地区	学校が休校になり、3月1日から、春休み状態になり、朝から子どもたちがたくさん来たことです。
62	普通	サービス業（対個人）	31名～50名	県南地区	特殊要因により売上高は大幅に増加したものの、その他は減少。
63	普通	サービス業（対個人）	100名以上	福岡地区	営業力不足
64	普通	サービス業（対個人）	100名以上	福岡地区	2月は売上25%増、3月は25%減。
65	悪い	製造業（生産財）	0名～5名	県南地区	今年度は2019年4月から売上の減少があっている。消費税増税前の注文もそれほどなく、暖冬で冬物も動かなかった。新型 コロナ の影響は5月辺りから出そうである。
66	悪い	製造業（生産財）	11名～20名	筑豊地区	新型コロナウイルス によるイベント中止等の自粛による、レンタル関係の減少

67	悪い	製造業（生産財）	21名～30名	県南地区	昨年の同期～秋までの間はかなりの量の注文を受けていたが、昨年末頃から少しずつ受注が落ちてきた為。
68	悪い	製造業（生産財）	100名以上	北九州地区	客先の発注減少
69	悪い	製造業（消費財）	0名～5名	福岡地区	時節柄あまり良い時期では無いが、若干減少している。消費税増の影響も有る。
70	悪い	製造業（消費財）	6名～10名	筑豊地区	食料品製造ですが、給食やイベントの中止により3月の売り上げ落ち込みが、著しい。
71	悪い	製造業（消費財）	6名～10名	筑豊地区	新型コロナウィルスの影響あり。
72	悪い	製造業（消費財）	11名～20名	北九州地区	3月予定がコロナウィルス影響によりキャンセルが出ているため
73	悪い	製造業（消費財）	11名～20名	県南地区	コロナの影響あり
74	悪い	製造業（消費財）	21名～30名	福岡地区	新型コロナウィルス感染拡大の影響による営業活動の制限、受注の減少。
75	悪い	製造業（消費財）	21名～30名	福岡地区	新型コロナウィルスの影響で、飲食店や学校給食等の売上が減少した。また、消費の低迷により食肉相場価格も安値が続いている為、売上、利益額の減少に繋がっている。
76	悪い	製造業（消費財）	21名～30名	福岡地区	大手企業1社による減少傾向が足を引っ張る形となったが、新規先の販路拡大が少しずつ進んでいる事と昨年度の社員増の為、利益減少となる。
77	悪い	製造業（消費財）	51名～100名	福岡地区	既存の仕事の減少
78	悪い	建設業（建築）	0名～5名	筑豊地区	全体的に得意先のジリ貧状態が目立つ。
79	悪い	建設業（建築）	11名～20名	福岡地区	様々に想定できるが、しかし何故と言う本質はわからない。
80	悪い	建設業（建築）	21名～30名	福岡地区	消費税増税後の反動
81	悪い	商業・流通業	0名～5名	福岡地区	コロナウィルスによる不安から買い控えが起きているように感じている。
82	悪い	商業・流通業	0名～5名	福岡地区	コロナによる客足の減少
83	悪い	商業・流通業	0名～5名	筑豊地区	1月から販売開始予定の新商品の部品が入らず仕様を変更。販売開始時期が3月末にずれ込んだため。

84	悪い	商業・流通業	0名～5名	県南地区	地域環境と現状が重なった為
85	悪い	商業・流通業	11名～20名	福岡地区	新規参入、競争激化、など
86	悪い	商業・流通業	11名～20名	北九州地区	コロナウイルスの関係
87	悪い	商業・流通業	31名～50名	福岡地区	新型コロナウイルス感染拡大による自粛モード
88	悪い	商業・流通業	31名～50名	筑豊地区	卸元の経営も厳しくなっている。
89	悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	コロナ騒動による自粛モード
90	悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	新規開拓が進まない。既存先の売上減少。
91	悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	既存顧客のみの対応で新規受注がない。
92	悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	コロナウイルスの影響
93	悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	新規営業の稼働率が悪かった
94	悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	支店閉鎖の為
95	悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	筑豊地区	新型コロナの影響
96	悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡県外	今回のコロナが相当影響している。
97	悪い	サービス業（対事業所）	6名～10名	福岡地区	新規開拓が思った以上にできなかった。少なからずとも2月、3月新型コロナウイルスの影響はあったように感じる。
98	悪い	サービス業（対事業所）	11名～20名	福岡地区	5人以上での開発場所の減少。
99	悪い	サービス業（対事業所）	11名～20名	福岡地区	コロナによる来店客減少
100	悪い	サービス業（対事業所）	31名～50名	福岡県外	コロナウイルスによる売上減少。
101	悪い	サービス業（対事業所）	51名～100名	福岡地区	既存顧客が多い
102	悪い	サービス業（対個人）	0名～5名	福岡地区	コロナウイルスの影響大
103	悪い	サービス業（対個人）	0名～5名	福岡地区	新型コロナウイルスの発生による航空機の運休、移動制限による
104	悪い	サービス業（対個人）	0名～5名	北九州地区	販売物件が少ない。販売単価が低い。

105	悪い	サービス業（対個人）	0名～5名	筑豊地区	売上高にこだわらず減収・増益を目指したため。新規受注に関しては固定客が定着化してきた。
106	悪い	サービス業（対個人）	0名～5名	県南地区	ホームページが認知されだした
107	非常に悪い	製造業（消費財）	6名～10名	福岡地区	人の動きが少ない。
108	非常に悪い	製造業（消費財）	6名～10名	福岡県外	コロナウイルス
109	非常に悪い	製造業（消費財）	31名～50名	福岡地区	コロナウイルス感染拡大防止による学校休校での影響
110	非常に悪い	商業・流通業	6名～10名	筑豊地区	コロナ問題
111	非常に悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	福岡地区	コロナウイルスの件で韓国から契約の為に日本に来ること不可能となった。また、新規大型契約に関して日本での案件視察等が中止になり、すべての契約が先延ばしになりつつある。
112	非常に悪い	サービス業（対事業所）	6名～10名	福岡地区	景気後退？コロナ？
113	非常に悪い	サービス業（対事業所）	11名～20名	福岡地区	コロナウィールス
114	非常に悪い	サービス業（対事業所）	21名～30名	福岡地区	新型ウイルスにて、イベント中止や卒業式中止などの影響にて
115	非常に悪い	サービス業（対事業所）	21名～30名	福岡地区	今期にはいい、求人情報誌の売上が低迷。ネットでの売上で落ち込んだ分をカバーできなかった。後半、下げ止まりはしたが、対前年比からすると落ち込みは厳しい。2月中旬あたりからコロナウイルスの影響もあったのかもしれない。特に中国人の旅行者が激減したためにインバウンドでの売り上げ低迷が影響している。例えばホテル関係はホテルのベッドメイキングの求人はすぐにストップがかかった。
116	非常に悪い	サービス業（対事業所）	31名～50名	県南地区	コロナ→2月89%、3月20%（売上前年比）
117	非常に悪い	サービス業（対個人）	0名～5名	福岡地区	中国からのウイルスの影響
118	非常に悪い	サービス業（対個人）	0名～5名	筑豊地区	新型コロナウイルスによる影響
119	非常に悪い	サービス業（対個人）	6名～10名	福岡地区	コロナウイルスによる顧客の減少。

120	非常に悪い	サービス業（対個人）	6名～10名	福岡地区	お客様への訪問活動が激減した（コンプライアンス遵守に伴い、面談契約をしなければならぬため）郵送対応ができる部分は、電話対応に切替えたが、訪問活動に繋がらず売上の減少となった。
121	非常に悪い	サービス業（対個人）	11名～20名	筑豊地区	コロナの影響
122	非常に悪い	サービス業（対個人）	21名～30名	福岡地区	消費税増税からのコロナウイルスにより消費が冷え込んでいる
123	非常に悪い	サービス業（対個人）	31名～50名	県南地区	新型コロナウイルス
124	-	サービス業（対事業所）	11名～20名	筑豊地区	例年の受注
125	-	サービス業（対個人）	0名～5名	福岡地区	競合他社参入やコロナの影響は多分にあります。

(イ) 経営上の問題その他

No	5.今期景況判断	1.業種	2.従業員数	3.本社所在地	11.経営上の問題点その他
1	非常に良い	建設業（設備）	0名～5名	福岡地区	コロナの影響がどうなるのか。
2	よい	建設業（設備）	6名～10名	福岡地区	コロナ
3	よい	サービス業（対事業所）	11名～20名	福岡地区	従業員のスキルアップ。
4	よい	サービス業（対事業所）	11名～20名	福岡地区	日本全体のマーケットが停滞する中、国内競争が厳しいことと、一部は福岡の一般消費市場が国内でも期待度が高いため、中央からの競合が触手を伸ばしてきている。
5	よい	サービス業（对个人）	0名～5名	福岡地区	過剰な人数の従業員。育児休業2名が戻ってくる予定の為
6	よい	サービス業（对个人）	21名～30名	筑豊地区	新人の育成
7	普通	商業・流通業	0名～5名	福岡地区	売上の低下、原材料調達が難しくなる恐れ
8	普通	サービス業（対事業所）	6名～10名	福岡地区	コロナにおける消費
9	普通	サービス業（対事業所）	11名～20名	福岡地区	コロナ関連による減少
10	普通	サービス業（对个人）	21名～30名	福岡地区	コロナの影響
11	普通	サービス業（对个人）	100名以上	筑豊地区	人材育成
12	悪い	製造業（消費財）	11名～20名	県南地区	材料の遅れ、市場景気が悪い
13	悪い	商業・流通業	0名～5名	福岡地区	集客コストの高騰。
14	悪い	商業・流通業	0名～5名	筑豊地区	不景気による売り上げの減少
15	悪い	サービス業（対事業所）	0名～5名	筑豊地区	売上減少
16	悪い	サービス業（対事業所）	51名～100名	福岡地区	コロナの影響
17	悪い	サービス業（对个人）	0名～5名	福岡地区	コロナによる影響大
18	悪い	サービス業（对个人）	21名～30名	福岡地区	新型コロナウイルスの影響

19	非常に悪い	サービス業（対事業所）	21名～30名	福岡地区	コロナウィルスでお取引先の経営悪化が予測される。採用手控えに結びつく
20	非常に悪い	サービス業（対事業所）	31名～50名	県南地区	コロナによるオールキャンセル
21	非常に悪い	サービス業（对个人）	0名～5名	福岡地区	コロナウィルスの影響
22	非常に悪い	サービス業（对个人）	51名～100名	北九州地区	コロナによる客数の減少